



■ 第 26 回 聖路加看護学会学術大会を終えて

第 26 回 聖路加看護学会学術大会 大会長
中山 和弘 (聖路加国大大学院 教授)



2021 年 11 月に第 26 回聖路加看護学会学術大会をオンラインで開催しました。175 名の参加者を迎えることができました。みなさまに感謝いたします。

メインテーマは「意思決定と健康と Well-being」でした。大会長講演では、意思決定の方法には種類があるため、とくに人生における大事なことを決める時は、情報に基づく合理的な意思決定をすることを選択肢に入れるべきだと話しました。選ぶ理由が目的に合っていて誰が見ても納得できて、見える化して身近な人々や医療者と共有できるからです。そのためには、健康情報に基づいて意思決定できる力であるヘルスリテラシーが必要ですが、多くの人が身に付けられていないため、意思決定支援が欠かせません。そこで中立的に患者・市民中心に支援できるディシジョンエイド(意思決定ガイド)によって、価値観と一致した意思決定を支援し、その決め方を広く普及させることを提案しました。意思決定の視点から健康と Well-being を見ると、心身の変化にうまく対処する意思決定ができて、人生の意味が見いだせるような自分らしい意思決定ができて幸せだと感じられて、そのために互いに協力し喜び合い信頼関係をつくることのできる社会づくりが望まれると結びました。

教育講演では、大坂和可子先生に、医療従事者によるディシジョンエイドの開発・普及・教育についてご自身の研究、ご経験を交えてお話しいただき、ミニ講座でも実際に作ってみるワークショップを開催していただきました。特別講演では、戸ヶ里泰典先生に Well-being と密接につながる健康生成論とストレス対処力概念 SOC の看護実践における応用について、お話しいただきました。シンポジウムでは、様々な臨床分野で開発・実用されているディシジョンエイドの現状、普及への課題について、様々な分野の専門家にお集まりいただき、その意義と役割について活発な議論が行われました。この学術大会が、みなさまが相互に刺激し合える学びの場となったとすれば幸いです。

■ 学術大会:シンポジウム



青木裕見(聖路加国際大学)

第26回聖路加看護学会学術大会のシンポジウムは、『ディジジョンエイド開発の現状、普及への課題』と題して、約120分の動画配信にて開催いたしました。

シンポジウム前半は、4名の演者より開発したそれぞれのディジジョンエイドについて、開発プロセスから活用、今後の展望について報告しました。後半は、大会長 中山和弘先生(聖路加国際大学)、座長 米倉佑貴先生・山本加奈子先生(聖路加国際大学)とともに、開発プロセスで難しいと感じたことや普及におけた課題について、活発に意見交換をすることができました。多くの方々にご視聴いただくことができ、当事者中心の医療、協働意思決定を支えるツールであるディジジョンエイドについて、一緒に考え、理解を深める大変有意義な時間となりました。

～シンポジスト～

青木頼子(富山大学)『脳卒中で入院した高齢者の「退院先を考えるガイドブック」』

青木裕見(聖路加国際大学)『大人のADHDの治療選択のためのガイド』

江藤亜矢子(小山嵩夫クリニック)『ホルモン補充療法を行うかを決めるためのガイド』

藤田美保(昭和大学横浜市北部病院)『“プラセボ対照ランダム化二重盲検比較デザイン”の治験参加を検討する患者さんのための意思決定ガイド』



■ 学術大会:ミニ講座I

「ディジションエイドを作ってみよう!—作成の基本からQ&Aまで—」に参加しました

松尾尚美(城西国際大学)

第26回聖路加看護学会学術大会 ミニ講座 1

ディジションエイドを作ってみよう!
—作成の基本からQ & Aまで—
「作成の基本」

世話人 大坂 和可子 (慶應義塾大学)
青木 裕見 (聖路加国際大学)
米倉 佑貴 (聖路加国際大学)
中山 和弘 (聖路加国際大学)

このミニ講座は、ディジションエイド(DA)の試作版づくりを体験し、質の高いディジションエイド、開発方法、活用方法について、その実際を学ぶ講座でした。

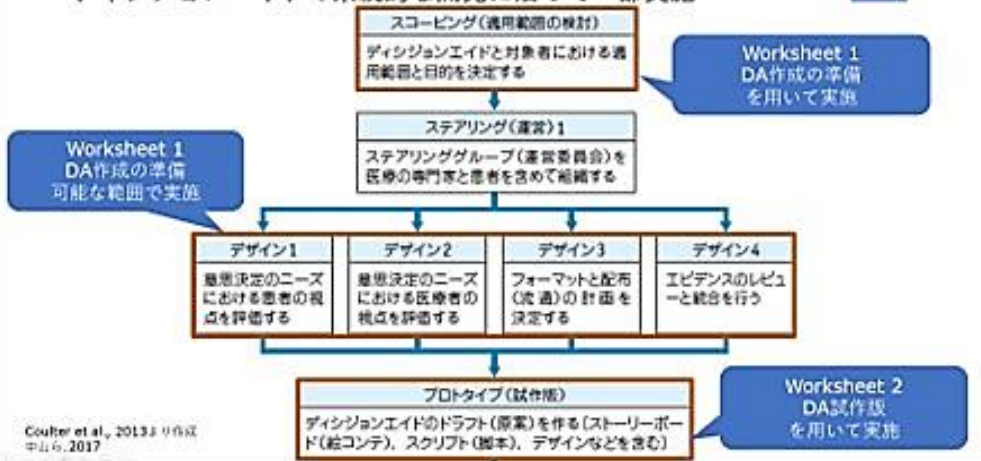
参加者は事前に配布された資料や動画を用いてDAについて学習し、自身の関心領域におけるDAの試作版に取り組み、疑問点や質問を明らかにした上でオンラインワークショップに参加。いざDA試作版の作成に取り組んでみると、かなりの試行錯誤を経験しました。オンラインワークショップ当日は、参加者によるDA試作版の発表、疑問点や質問に対する講師の先生方からの丁寧なフィードバックをいただきました。体験型だからこそ得られた貴重な学びがありました。

ディジションエイドとは?

- ▶ 医療やケアの意思決定に、患者が参加するのを支援するためのツール
- ▶ 選択肢に関連した情報と価値観を明確にする方法を提供し、選択肢の中からよく考え、系統的な決定を支援するためにデザインされた介入 (Stacey et al., 2017)
- ▶ 補助ツールであり、医療者の代わりにはならない



ワークショップで取り扱う内容 —ディジションエイドの系統的な開発に沿って一部実施—

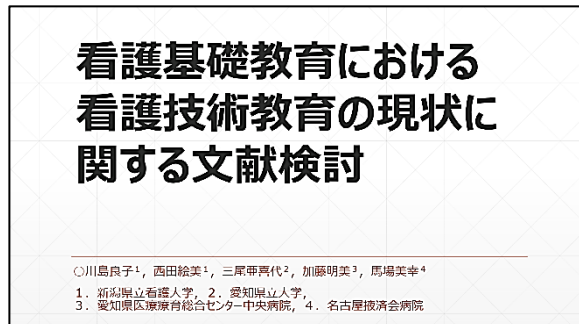


■ 学術大会:オンラインによる演題発表



ポスター発表の体験

川島良子(新潟県立看護大学)



はじめて、オンラインによる学術大会での発表を経験しました。対面とは異なり、ポスターのみによる発表は伝える内容をいかにわかりやすく表現するかを考えることが必要でした。研究チームで検討してようやく発表となった時は喜びもありました。質問もメールで届いた際には驚きと喜びで、交流できていることの実感も沸いたことは貴重な体験でした。看護技術教育に同じように苦勞されていることがわかり、今後の教育への励みになりました。

口演の体験

工藤由佳(群馬病院)



先日、今回の発表を聞いた先生から激励のお手紙をいただき、涙が出そうになりました。というのも、我々が行っている取り組みは、孤独の闘いだからです。

「患者さんの意思を尊重する」という総論に反対する人はいないと思います。ですが、長期入院の患者さんの退院をめぐる各論では、リスク回避の方が優勢で、支援する側の心が折れそうになることがしばしばあります。でも、今回の発表のおかげで、明日もまた闘い続けられそうです。

精神科、長期入院患者と今後生活する場所を決める
意思決定支援ガイドの開発過程



特定医療法群馬会群馬病院
工藤由佳 加藤一幸

■ 高度看護実践開発検討委員会より ～研修会報告(第2弾)～

「COVID-19で発揮される専門看護師の底力～チャレンジとその成果～」の詳細報告

先にご報告いたしました通り、高度看護実践開発検討委員会では上記の研修会を10月31日(日)にWEB開催いたしました。COVID-19感染拡大下において活躍しておられる二人の専門看護師からチャレンジの実際とその成果や課題、導き出した知見についてお話いただき、パンデミック下における高度看護実践家が果たしうる役割や可能性について考えることをねらいとしました。当日は146人もの方々にご参加いただきました。以下に研修会の内容について報告いたします。

最初に、横須賀共済病院の精神看護専門看護師である河野伸子先生から「精神看護専門看護師の責務と課題～医療従事者のメンタルヘルス支援を通して～」のテーマでご講演いただきました。河野先生は高度急性期病院の役割とCOVID-19の対応を両立させる責任を持つ病院の中で、精神看護専門看護師として患者集団へのケアやケアの質評価に加えて、看護師や医療ケアチームの葛藤に対応するため院内メンタルケアチームを成立させて成熟させるというチャレンジをされました。チーム設立の提言から人選、組織化、活動と、自分自身もチームに所属しながらチームを陰に日向に支援し続ける専門看護師ならではの活動をお話くださいました。個々の職員を支援するだけでなく、社会的・精神的負荷の実態調査や看護師たちへの認知行動療法の実施など広い視野で状況を把握し、対処していました。河野先生はこのような活動のポイントとして、「精神看護CNSが行うことを選択する」「CNSの役割を意識しつつ、縛られない」「看護師が医療従事者としての責務を果たし、個人としても後悔のない判断、行動ができるような支援」「様々な次元でのダイナミクスをとらえる」とまとめてくださいました。さらに、そのためには持てる力を柔軟に、先を見通しながら最適化すること、不確実なことに意思決定する責任とリスクを引き受ける、閉鎖的にならずに常に異なる視点を現場にもたらし、現象や看護が何をしたのかを説明し発信する、といった力が必要であることを教えてくださいました。

参加者からは「河野先生自身も葛藤されながら実践を切り開かれていたことにとっても励まされた。」等たくさんの反応をいただきました。

配布資料：当日の内容を一部割愛
させていただきます。

COVID-19で発揮される専門看護師の底力～チャレンジとその成果～
精神看護専門看護師の責務と課題
～医療従事者のメンタルヘルス支援を通して～

2021年度聖路加看護学会 高度実践看護開発検討委員会企画
2021年10月31日
国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院
精神看護専門看護師 河野伸子



次に、ウィル訪問看護ステーションの在宅看護専門看護師である岩本大希先生に「新型コロナ感染症がもたらした危機と、在宅看護の現場での危機介入」のテーマでご講演いただきました。岩本先生は自施設だけでなく、訪問看護業界全体の窮状に合わせて活動をされました。COVID-19 に対する訪問看護の実務的な情報が少ないことに対し、実践的なガイドを有志で作成し、web 上でフリーで公開することで多くのケアラーに情報が届くようにしました。さらに地域で不足する個人防護具をパッケージ化して地域の拠点にストックするシステムを作るなどダイナミックな活動をされていました。

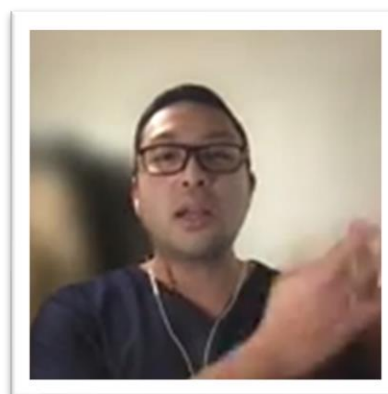
また、自治体の要請を受けて、COVID-19 陽性自宅療養者への訪問看護を行い、その実践を広く web で公開し、実践上の課題を抽出して自治体や政府にフィードバックするなどされました。自宅療養者への訪問看護では、医療機関や保健所との連携の難しさや、患者の既往歴などの把握の難しさ、酸素濃縮器供給者の運用ルールの不確定さ、指示書やクリニックの医師と同一日訪問ができないなどの制度上の問題など実践してこそわかる課題を丁寧に教えていただきました。

参加者からは「システムがない中ゼロから作り上げていき、広報やリサーチに関しても活動経過から発信していくなど、その行動力に感激した。」「自治体や同業者へのアプローチを行い、うまくいかなかったこともあったが、チャレンジし続けていることに、自分の実践を重ね合わせて共感した、とても励みになった」等、感想をいただきました。

これから対応するにあたり
整理しておくといふこと

- ・指示書なしの健康観察は仕組みがないとなにもできないので、行政と保健所に仕組み確認。
- ・指示書による訪問は、その次の日以降のフォローどうするか確認。
(輪番医師だと誰の指示で動けばいいのか不明)
- ・地域の事業所間の依頼を投げ込むところを作っておく。
- ・医師や保健所への報告や共有方法を確認しておく。
- ・普段訪問診療をしてない医師からの依頼の場合は、こちらからサポートするつもりで。(物品など特に)
- ・保健所は電話つながらないつもりで。
- ・軽症者や中等症1の方の入院ブッシュはよく考える。
- ・気になることがあれば5分でもいいので観察しに訪問がよい。

Copyright Wyl, Inc. all rights reserved. Confidential | 32



お二人の先生から共通して CNS の役割として語られたのは、感染パンデミックという災害下においても、CNS は現状を多角的な視点で観察して分析し、現場に必要なことに対して様々なリソースを活用し、勇気をもって誠実に取り組み、常に評価と改善を続けるのだということでした。参加された方も改めて自らの実践を振り返り、明日への活動に勇気をもらったと思います。

2021 年も世界中で大きな変化が続いた年でした。人々の交流の方法、学習の方法が大きく変わったことを実感します。その中でも多くの看護師が、看護を必要とする方々に効果的で効率的な看護を届けるすべを模索し続けています。今後も引き続き、実践家・研究者にエールを送り明日からのエネルギーに変えられるような企画を検討してまいります。COVID-19 とのおつきあいが続きますが、会員の皆様のご検討と安寧を委員一同心より願っております。

(担当:青木 悠、猪飼 やす子、佐藤 直子、矢ヶ崎 香、野末 聖香)

■ 広報委員会より ～聖路加看護学会 HP リニューアル!～



2020年、聖路加看護学会は創立25年でした。2021年、新たな四半世紀を迎えるにあたり、学会のHPをリニューアルいたしました。新しいURLは、<https://slnr.or.jp/> です。

トップページのデザイン部分はコンセプトイメージを「聖路加アカデミック」とし、聖路加と学会の学際性を象徴する写真を選び、デザインしていただきました。チャペルの十字架の凛とした堂々たる佇まいや花が生き生きと咲き誇る様から躍動感を、四季の移り変わりから学会の日々の活動性を感じていただければと思っております。皆様に選んでいただきましたロゴは左上に配置し、各ページにはナデシコの花を用いています。

機能面では、学術大会や学術交流会の情報やよく使用されるページにアクセスしやすいよう、トップページにアイコンを配置しております。新たに、「プライバシーポリシー」「高度看護実践開発検討委員会開催のこれまでの研修会等一覧」「日本学術会議協力学術研究団体について」等のページを加えました。事務局への問い合わせには専用フォームをご活用いただけますし、聖路加看護学会誌が閲覧できるリボジトリのバナーも刷新しております。

2022年1月25日にリニューアルいたしましたHP、ぜひご活用ください。

(担当:佐居由美)





■ 学術交流委員会より

皆様、こんにちは。学術委員会からは、以下の2点についてお知らせします。

【研究助成】12月より募集していました、2022年度「一般社団法人聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金」は募集を締め切りました。ご応募いただきありがとうございました。今後は、2月～3月にかけて審査を進めていく予定です。

【学術交流会】今年度は宮城大学の平泉拓先生をお招きし「WEB時代のコミュニケーション 遠隔コミュニケーションの特徴と対話の工夫」についてご講義いただきました。次号にて当日の意見交換会の様子などをご報告いたします。

(担当: 吉田俊子)



2021年度 聖路加看護学会学術交流委員会主催学術交流会

**WEB時代のコミュニケーション
遠隔コミュニケーションの
特徴と対話の工夫**

2022. 2. 5. SAT
time 13:00～15:00 at Zoomミーティング

参加無料
会員・非会員とも

コロナ禍で遠隔コミュニケーションの機会がとも増えました。テレナラティブ、ご家族の面会、看護教育における授業や学生との面談など、看護に関連する分野でも多様に利用されています。遠隔ならではの利便性がある一方、コミュニケーションが難しいと感じる場面もあるのではないのでしょうか。今回、遠隔心療支援のご経験が豊富な講師をお招きし、遠隔コミュニケーションの特徴と実践における工夫、日常で活用する上での留意点についてご講義いただきます。

WEB時代のコミュニケーションについて一緒に考えてみませんか。

講師
平泉拓先生
(宮城大学看護学群准教授教育学博士)
専門分野: 臨床心理学、家族心理学、遠隔心理学

ご参加方法
パソコンまたはタブレットからご参加いただけます。

1) お申し込み
専用フォーム<https://forms.gle/GT3mCueTGFvTf>からお申し込みください。下記QRコードからもお申し込みいただけます。メールアドレスはZOOMご参加時に使用するメールアドレスをご登録ください。

2) URLを受け取る
ご申し込みURLを送信いたしますので、slrنگk@sicn.ac.jpからのメールを受信できるように設定をご確認ください。

3) 参加する
当日は、URLをクリックして開始時刻までにご参加ください。参加時はお名前の表示をお願い申し上げます。

※お申し込み完了後、改めてメールでご案内いたします

タイムテーブル

13:00 開会
13:10 ミニレクチャー
13:30 グループワーク
14:10 発表・意見交換
14:40 講師からのコメント
15:00 閉会

グループワークについて
ZOOMのブレイクアウトルームという機能を利用します。ご参加の皆様は、割り当てられたブレイクアウトルームに入り、遠隔コミュニケーションにまつわる経験や日頃の困りごとを共有し、対話の工夫について話し合います。

お申し込みはこちら
お申込受付期間：2021年12月10日(金)～2022年1月31日(月)

お問い合わせはこちら ▶ 聖路加看護学会学術交流委員会 slrنگk@sicn.ac.jp

※お問い合わせの際は、お申し込み時のメールアドレスはZOOMご参加時に使用するメールアドレスをご登録ください。資料にURLを添付しますので、slrنگk@sicn.ac.jpからのメールを受信できるように設定をご確認ください。メールアドレスがない場合は、お問い合わせの際に連絡メールアドレスをご確認ください。

聖路加看護学会学術交流委員会 | 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内
〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内
〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内
〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内



■ 学会誌編集委員会より

25巻2号が電子発刊されました。号数を示した発刊はこれが最後となり、2022年度からは随時受付が始まります。よりスピーディーな論文の査読、公開を目指し、学会誌編集委員一同、一丸となって取り組んでまいります。

みなさまからの論文投稿をお待ちしております。

(担当: 有森直子)



■ 庶務より ～会員数は594名となりました～

年度末が近くなりました。2021年度はオンラインでの総会を行い、会員の皆様との新たな方法での交流にチャレンジすることができました。

皆様におかれましては、年度末に向けてご多用な時期をお迎えになると思います。新年度からご連絡先が変わる方は、ぜひ早めに事務局までご連絡くださいますと幸いです。また会員数は594名(2022年1月17日現在)です。新年度を機に入会を希望する方がいらしたら、ぜひご推薦くださいますよう、お願いいたします。

(担当:大久保暢子,森田誠子,西垣佳織)

■ 会計より ～2021年度の会費納入をお願いします～

2021年度の会費納入がお済みでない方は、是非今年度中に指定の口座にお振込みをお願いいたします。2022年1月28日現在で、会費が未納入の方は151名です。

本学会は皆様の会費により活動を行っております。学術大会をはじめ多くの事業がWEB配信になっておりますが、学会事業は活発に行われています。

会費納入へのご理解・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

(担当:平林優子,小林真朝)

振込先:郵便振替口座

口座番号:00100-8-670371

加入者名:一般社団法人 聖路加看護学会 シャ)セルカカゴガ ッカ

■ 編集後記

一年の締めくくりとなるこの時期、皆様いかがお過ごしでしょうか。学会HPをリニューアルすることができました。先達者の聖路加愛がたくさん詰まったHPです。ぜひ活用いただき、ご意見をいただきたいと思えます。

次年度こそは「コロナ収束を!」と願いながら、引き続きどうぞ皆様ご自愛下さい。

(担当:大橋久美子,佐居由美,瀬戸山陽子,竹森志穂,松尾尚美)

ニュースレター発行や様々な情報をメールリングリストでお伝えします。

メールアドレスが変更された場合は、学会事務局 slnr@slcn.ac.jp までご連絡ください

一般社団法人 聖路加看護学会ニュースレター No.56

- ▶ 発行:2022年2月28日
- ▶ 編集:広報委員会(大橋久美子 佐居由美 瀬戸山陽子 竹森志穂 松尾尚美)
- ▶ 連絡先:〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内

[学会ホームページ] <https://slnr.or.jp/>